

研究課題	新潟市高齢者のデータに基づく住民主体の健康・介護予防施策づくり
支援番号	GCO1220151
研究事業期間	平成27年4月1日から平成28年3月31日
助成金総額	600,000円
研究代表者 (所属機関)	菖蒲川 由郷 (新潟大学大学院 医歯学総合研究科 国際保健学分野)
研究分担者 (所属機関)	田代敦志 (新潟市保健衛生部)、齋藤玲子 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 国際保健学分野)
研究キーワード	見える化、データの活用、GIS (地理情報システム)、健康格差の縮小、健康寿命の延伸
研究実績 の概要	<p>本研究は、平成24-26年度の新潟市医師会地域医療研究助成による研究「新潟市内の高齢者における疾病・介護リスク要因の評価とGISを用いた視覚化」により構築した見える化システムを使って、行政と住民より意見を聞き、実現可能な健康づくりと介護予防施策立案に発展させることを目標に1年間の計画で実行した。</p> <p>具体的に平成27年度に達成した成果は下記の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 見える化システムと地域診断書を用いたワークショップの開催</li> <li>2. さらに実用に即した見える化システム” NIIGATA HEART” の開発</li> </ol> <p><b>1. ワークショップの開催</b></p> <p>すでにH24-26の助成金により構築した見える化システムと地域診断書を実際の介護・保健施策に役立てるため、H26年度後半にパイロット的にワークショップを開催した (高齢者支援課 [当時] 主催)。さらに、地域を絞って保健師会議で見える化システムと地域診断書を紹介した (中央区等)。現場の保健師からは、次のような意見が寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活圏域毎の地域診断では粗いので中学校区に分けてほしい。</li> <li>・ 年齢を考慮した結果でないと信頼できない (リスクが高い地域＝より高齢の方が住んでいるだけ)。</li> <li>・ PCを用いた見える化システムではパソコンのほうに気が行ってしまい、地域の課題の抽出や対策の考案に集中できない。</li> </ul> <p>という意見があった。これらの意見を総合して、中学校区毎の年齢調整したデータを用いた地域診断書を作成した。その上で、地域包括ケア推進課と協働で「地域診断に基づく介護予防事業ワークショップ」を平成27年12月に2回開催した。地域包括ケア推進課より全区に案内し、手挙げ方式で参加を募った。ワークショップは下記のSTEPで実施した (計3時間半程度)。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>STEP 0 事前に参加者が地区のよい点・課題点を記載して提出</p> <p>STEP 1 地区のよい点と課題点をみつける →地域診断書等のデータ (JAGES2013) を提示</p> <p>STEP 2 よい点と課題点の原因をさぐり対策を考える →課題点・よい点との関連要因を提示 (JAGES2013の解析結果から)</p> <p>STEP 3 今後の具体的なアクションを考える</p> <p>最後に まとめと発表</p> </div>

ワークショップに参加したのは下記の区・地域包括支援センター等である。

平成27年12月18日 参加18名

- ・ 東区（地域包括支援センター石山、東区健康福祉課高齢福祉係・健康増進係、石山地域保健福祉センター）
- ・ 秋葉区（地域包括支援センターにいつ日宝町、秋葉区健康福祉課高齢介護係・健康増進係・地域保健福祉担当）
- ・ 南区（地域包括支援センターしろね北・しろね南・あじかた、南区健康福祉課地域健康係）

平成27年12月25日 参加27名

- ・ 中央区（地域包括支援センター関屋・白新、ふなえ、宮浦東新潟、姥ヶ山、中央区健康福祉課健康増進係・高齢介護係・地域福祉係、中央地域保健福祉センター、東地域保健福祉センター、南地域保健福祉センター）

ワークショップにはファシリテータとして研究者側から4~5名程度が参加した。

ワークショップでは地域の課題やよい点をデータに基づいて検討した上で、具体的な解決策まで考案することができた。住民を交えた議論は今後の課題となった。

## 2. NIIGATA HEARTの開発

ワークショップの経験から、現場で地域の保健活動・介護予防活動を実践している保健師が必要としている情報に合わせたシステムの開発が有用と考え、H24-26の研究の一環として開発したJAGES HEART（新潟市版）を全面的に更新した（※なお、JAGES HEARTはJAGES研究グループが開発した見える化システムである。HEARTはHealth Equity Assessment and Response Toolの略で、WHOのアーバンハート[都市における健康の公平性評価・対応ツール]に調和する形で開発された）。

### NIIGATA HEARTの特徴

- 介護予防リスクを課題ごとに検討できるスタイル
- 介護予防リスクの原因因子を一覧化し、それぞれに見える化
- 中学校区毎の地域診断が可能
- Webベースで使用できるシステム

研究期間中にNIIGATA HEARTのプロトタイプまでを作成することができた。今後、実際に新潟市の介護予防・保健施策に実用化してもらうために、本システムを新潟市に提示し、修正改善を経た上で活用してもらうことを計画している。